



こう ずけ だい
上野臺

第3号

発行日
H17.12.28

発行元
本多上野介正純公を学ぶ市民の会
〒013-0023
秋田県横手市中央町8-2
横手市 横手地域局 地域振興課内
TEL 0182-32-2111 (内線2112)

※かつて本多上野介正純が横手での余生を過ごした高台が、現在も「上野台（こうずけだい）」と呼ばれている。

宇都宮交流特集号

宇都宮の地へ再び

～ 横手の物産も売り切れ続出!! ～

当会では、先の11月4日・5日、1泊2日の日程で、16年度に引き続き今年も宇都宮城址まつりに参加いたしました。

参加会員は、会員8名、サポート隊員4名に加え、4月の学習会時にご講演いただいた東北電力 秋田電友会 歴史探訪同好会の高橋信一さんご夫妻も参加し、総勢14名となりました。昨年よりちょっと少なめの参加人数ではありましたが、まつりへの参加の他、4日の「よみがえれ！宇都宮城」市民の会の皆さんとの交流会や5日には鎌倉時代後半に宇都宮氏の重臣、芳賀高俊により築かれた飛山城史跡公園を視察しました。

また、今回は、宇都宮市さんの計らいにより横手の物産を出すことができ、横手やきそばセットやいぶりがっこなど、ほとんどの品物が売り切れしました。

片道6時間の移動時間をこなしながらの強行軍ではありましたが、本多正純公が縁での、この交流は2度目の今回でさらに一歩進んだものとなり、参加した各会員にとっても充実したものとなりました。



※宇都宮城址まつりとは

宇都宮の歴史を知ってもらおうと、平成8年から宇都宮城址公園(旧御本丸公園)を会場に開催したのがはじまりです。現在、城址公園が復元工事のため市内の中央小学校に会場を移し、このとき史実に基づいた「時代行列」を取り入れました。「時代行列」は、宇都宮城主の入城の様子を参考にしたもので、そろいの法被に一文字笠・わらじ・道具を身に着けた大勢の市民が宇都宮市の中心部を練り歩きます。

「宇都宮城址まつり」は、歴史こそまだ浅いのですが、宇都宮城の復元とともに、市民の郷土を盛り上げようとするエネルギーが感じられるおまつりです。

(「よみがえれ！宇都宮城」市民の会ホームページより抜粋 写真は当会撮影)

<http://www.utsunomiya-jo.jp/index2.htm> ぜひアクセスしてみてください!!

宇都宮城址まつり特集

トップページでご紹介の通り、去る11月4日～5日 市民の会では、宇都宮市を訪問し、「よみがえれ！宇都宮城」市民の会のみなさんとの交流会や5日に開催された宇都宮城址まつりに参加いたしました。
その一部を紙面にてご報告いたします。また、副会長の佐川君子さんより、紀行文をお寄せいただきました。

日程

11月4日

10:30 市役所前 出発

秋田道・東北道

17:30 宇都宮市 到着

18:30 「よみがえれ！
宇都宮城」市民の
会との交流会

11月5日

9:30 飛山城史跡公園
視察

11:00 城址まつり参加

14:30 復元工事現場視
察

15:30 宇都宮市 出発

東北道・秋田道

21:30 市役所前 到着



挨拶する多賀糸
会長



まつりの人気
火縄銃の試射



戸田城主とともに



宇都宮市民の会のみなさんと

作事最中
ぎなか）の宇都宮城址と「城址まつり」を訪ねて

十一月四日、会員とサポート隊十四名を乗せたマイクロバスと横手の名産を積んだワゴン車は、横手インターから晩秋の東北路を宇都宮市に向かってひた走りに南下した。今から三百七十年前、どんなにか辿（たど）り着きたかったであろう一武将の無念の思いも乗せて。
六時間余りの車中で高橋信一氏（秋田市）のご講話を拝聴し、日波の宇都宮では今夏「寄進瓦記名式」に来横された方々をも含め、両市会員のなごやかな交流夕食会となった。
明けて五日は晴天。早朝、ホテルからバスで五キロほど離れた小高い丘陵にある支城「飛山城跡」を訪ねた。国指定の城跡公園は、大都会の攻防・喧騒（けんそう）の中、良識ある人々に守られ、史実に沿って整備されていた。塀重門の近くに、ある歴史体験館の資料と園内に点在する復元建造物の丁寧な案内に、関心しながら、往時、天然の要害と思しき崖下の鬼怒川の光に眼が奪われた。とりわけ興味深かったのは、「釋家（とくひや）」と書かれた土器の発掘で、かつて「ろし場」があったことが証明されたことである。先頃、実験では、空気の汚れから三キロメートルしか煙を確認できなかったと聞いた。再び市街地へ引き返し、まつりの会場に到着した時には、「横手の物産」ののぼりがブースにはためき、買物客で賑わっていた。昨年同様、耳をつんざく火縄銃の演示等のセレモニーに「まとい」の梯子（はしご）芸も加わって、大名行列は勇壮な男体雷太鼓に送られ、毛やりを先頭に市中へ繰り出して行った。
行列終了後、復元工事の城址公園を訪れた。長さ二百三十メートル、高さ十メートル余り、幅十五メートル程の鉄筋コンクリートの土塁工事は完成しており、見本の土盛りとチゴザサの移植を見ることができた。ヘルメットをかぶり、土塁の上九メートル余りの「清明台」の最上屋根付近の足場を一巡し、横手の皆さんの寄進瓦はこの辺に乘せました」と説明された。四隅の大瓦にはなんと本多正純公の家紋「立ち葵」。
今、宇都宮四十五万市民の心の拠りどころの天守のシンボルに……と見上げた時、思わず目頭が熱くなった。来年は第一次整備完成と言う。再度訪れることができるなら、せめて「根岸の高台」の土を一握り持って行きたい！そんな想いに駆られる旅でもあった。

副会長 佐川 君子



宇都宮城復元柱・瓦募金 ご協力ありがとうございました。

募金総額35万円が宇都宮市民の会へ

本多上野介正純公を学ぶ市民の会では、今年度の活動の一環として宇都宮城復元のための柱募金 瓦募金への協力活動を展開してまいりました。それに伴い、今夏の7月24日には、「よみがえれ！宇都宮城」市民の会への募金の手渡しと記名式を行ったことは、一部新聞報道もあり、会員のみなさまもご承知かと思います。

この場をお借りしまして募金総額を皆様にお知らせしますとともに、事務局から報告が遅れましたこと、募金にご協力いただいた方々や会員のみなさまに対しましてお詫び申し上げます。

募金総額は35万円で、うち柱募金は11万円（11口）、瓦募金は24万円（80口）でありました。会員はもとより、会員でない方の募金もあり、改めて本多公に対する思いをお持ちの方がたくさんいらっしゃるなあという感じがいたします。

記名式のために来横した宇都宮市民の会のみなさんは、ちょうど蛇の崎川原で行われた全国線香花火大会に参加していただき、横手の短い夏の一夜を満喫されました。

募金にご協力いただきまして、大変ありがとうございました。



本多公への思いを瓦につづる会員のみなさん

編集後記



お蔭様で夏には『よみがえれ！宇都宮城市民の会』の藤井会長さんはじめ14名の宇都宮市民を横手に迎え、晩秋には再度宇都宮を訪れ交流を深めることが出来ました。感謝申し上げます。

明年は、宇都宮城の復元もほぼ終了し、城址まつりも会場を移し盛大に開催されるようです。乞うご期待！

さて、当会も3年目を迎え、いよいよ地元の懸案事項(?)に目を向け、幅広い活動を展開する時かも知れません。新しい年に気持ちも新たに、着実に地歩を進めたいものです。

(事務局長 佐藤良吉)



こんなイメージで来春には、本多公への思いをつづる記帳台を作る予定です